

自閉症・情緒障害特別支援学級を担当する先生のための

異年齢集団における授業づくりのヒント

今年度、新たに受けもつ自閉症・情緒障害特別支援学級は、三つの学年の児童が在籍している異年齢集団だ……。数年前に、自閉症・情緒障害特別支援学級の担任をしたことがあるけど、そのときは、同一学年の児童だけだったから不安だな……。複数の学年の児童が混在する中で、どうやって指導すればいいの?!



小学校自閉症・情緒障害特別支援学級担任のラン先生

ラン学級

自閉症・情緒障害特別支援学級の在籍児童



第2学年 男児 A
(自閉症・ADHD)



第3学年 男児 B
(自閉症)



第3学年 女児 C
(選択性かん黙)



第5学年 女児 D
(自閉症)



同一学級内に、複数の学年の児童が在籍している「異年齢集団」に対して、どのように授業づくりをしていけばよいか、小学校の場合を例にして、一緒に考えていきましょう!

令和5年3月
広島県立教育センター

近年、全国的に自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する児童生徒の数は増加傾向にあり、学級数も増えています。これは、広島県においても同じ状況です。また、県内（広島市を除く）の自閉症・情緒障害特別支援学級の内、複数の学年の児童生徒で構成される学級の割合は**小学校で約90%、中学校で約71%**となっています。自閉症・情緒障害特別支援学級の児童生徒は、小学校・中学校に準ずる教育課程で学習を進めている場合が多いため、異年齢集団における授業づくりに難しさを感じているのではないのでしょうか。

自閉症・情緒障害特別支援学級の担任が授業づくりをするときに感じる不安

- ・ 様々な特性のある児童生徒に対して、個に応じた支援をすること
- ・ 主となる一人の指導者が、複数の学年（異年齢集団）の授業を同時に進めていかなければならない。そのため、教材研究（教材準備等も含む）や、一人一人の学びを見取って個別に支援すること
- ・ 学習が停滞すること など



異年齢集団での指導には、不安や難しさを感じる一方で、次のようなメリットがあるとの声も聞こえてきます。

異年齢集団における学習のメリット

【上の学年のメリット】

- ・ 下の学年に教えることで責任感が芽生えるとともに、小さな成功体験を積み重ねることで、自己有用感や自己効力感等を感じることができ、学習への意欲が高まる。

【下の学年のメリット】

- ・ 上の学年を身近なロールモデルとして、よりよい学び方等を学ぶことができる。

【その他】

- ・ 同じ学習領域について、互いに関わり合いながら学習することで、学習の系統的なつながりを感じることができる。
- ・ 必然的に教師が直接指導できない場面では、一人で学習を進めていくこととなり、自ら学びを進めていく力の育成につながる。



このパンフレットは、自閉症・情緒障害特別支援学級の担任の異年齢集団における授業づくりに難しさを感じていらっしゃる先生方向けに指導の指針となるように作成しました。本パンフレットを御活用いただき、授業づくりのヒントにいただければ幸いです。

自閉症・情緒障害特別支援学級の教育課程

ラン先生は、これから、どのように授業づくりをしていきたいですか。



特別支援教育
コーディネーター

児童一人一人の学びに合った授業づくりをしていきたいと考えています！！



小学校自閉症・情緒障害
特別支援学級担任の
ラン先生

そうですね！一人一人に合った授業を展開するためには、それぞれの「困難さ」を理解することが必要です。
児童の実態を把握し、個に応じた適切な指導と支援をするためにまず知っておくべきことは何か分かりますか？



えーと……。自閉症・情緒障害特別支援学級の教育課程や障害の特性について、でしょうか？



その通りです！では、一緒に確認していきましょう！

特別支援学級の教育課程は、基本的に「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」に基づいて編成します。次の2点を含めて実態に応じた教育課程を編成しましょう。



- ① 原則として、当該学年の各教科等の目標・内容を指導すること。

基本的には、第1学年には第1学年の各教科等の目標・内容を指導するということですね！



- ② 学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な指導領域である「自立活動」を取り入れることが必要。

【例：小学校の場合】



学校の教育活動全体

図のように、自立活動の指導は「自立活動」の時間だけでなく、学校の教育活動全体を通じて行うものです。児童の実態に合わせて、それぞれの内容に取り組んでいきましょう。

※ 障害の特性から学習進度が遅れていたり、入院等により学習の空白があったりする場合などは、十分検討した上で一部の教科について、下学年の学習内容を扱うこともあります。



通常の学級での一斉授業とは異なり、それぞれの児童の障害の特性を踏まえた上で、個々の実態や学習の進捗状況に応じた授業づくりを考えることが大切です！



1 障害の特性



ラン先生が、自閉症・情緒障害特別支援学級の担任をされていたのは、少し前のことなので、もう一度、「障害の特性」について確認しましょう！

はい！自閉症と情緒障害それぞれの基本的な障害特性について、把握しておくことが必要ですね。



自閉症の特性

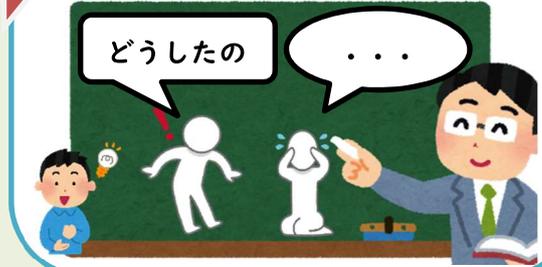
障害特性に応じた支援の工夫（例）

① 他者との社会的関係を形成することの困難さ

- 他者の表情や身振りから気持ちを読み取ることが難しい。
- 他者との関わりが一方向的であったり、興味・関心を共有したりすることが難しい。



- 他者の気持ちをイラストや言葉を使って視覚的に分かりやすく説明するなどして、理解を促す。（例：コミック会話）



② 言語や非言語によるコミュニケーションの困難さ

- 話し言葉による表出が困難であったり、独特な言い回しや適切でない表現を用いたりする。
- 言葉や身振りなどで意思伝達をしたり、他者と感情や意思を交流したりすることが難しい。



- 会話の内容を視覚的に示したり、返答に選択肢を用意したりすることで、会話をしやすくする。
- 「気持ちを表す絵カード」や場面ごとの「使うとよい言葉リスト」などを準備して、意思を表出しやすくする。

③ 興味や関心が狭く特定のもの（こと）にこだわりがある

- 時刻表や乗り物等の特定の対象物に強い興味を示したり、同じ道、同じ場所、同じやり方等に対するこだわりがあったりする。



- 日課や手順の変更に対処することが苦手である。

- 見通しがもてるよう、予めスケジュールや活動の内容・順番を視覚的に分かりやすく示すことで、見通しをもって活動に取り組むことができる。



1		目の体操
2		口の体操
3		状況の読み取り①
4		状況の読み取り②
5		個別課題

④ その他

- ・感覚面の過敏性や鈍感性がある。
- ・手先等の運動面に不器用さが認められる場合がある。



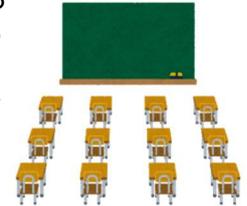
- 本人が使いやすい道具（持ちやすい鉛筆や、消しやすい消しゴム等）を用意する。
- 道具の使い方や身体の使い方について、イラストや動画で示す。



- イヤーマフの着用によって聴覚刺激を調整することで、落ち着いて活動することができる。



- 教室内の温度や湿度、明るさや臭い等の感覚的な刺激に配慮する。



情緒障害の特性

情緒障害とは、周囲の環境から受けるストレスによって状況に合わない心身の状態が持続し、自分ではコントロールできないことが継続している状態をいいます。状態の現れ方としては、次のようなものがあります。

- ① 心理的な要因による、選択性かん黙



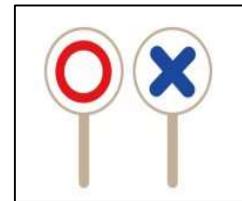
障害特性に応じた支援の工夫（例）

●コミュニケーションに関する支援の工夫

質問に対して、指差しやカードを使って答える方法を取り入れたり、伝言メモ、録音器具、タブレット型端末等を準備したりして、複数のコミュニケーション手段を用意する。



【指差しカード】



【○×カード】



【伝言メモ】

- ② 心理的な要因による、集団行動への参加の難しさ、不登校、離席、常同行動[※]、チック等の症状

※常同行動とは、身体をゆすったり、同じ場所を歩き回ったりするなどの繰り返しの行為や言動を指します。

●安心できる学習環境の整備

本人が安心して活動できるように、落ち着くことができる場所（スペース）や時間を用意したり、スケジュールや活動内容を視覚化して見通しをもたせたりすることで、活動に取り組みやすい環境を整備する。



選択性かん黙等の情緒障害と、自閉症が背景にある情緒の不安定等の問題は原因も対応も異なります。それぞれの障害の特性に応じた指導・支援が必要だけでなく、学校が安心して過ごせる場所となるような配慮が必要です。



2 学びやすい学習環境の整備



障害の特性に応じた指導・支援を進める上で、時間割の設定や教室環境の整備など、まずは児童が学びやすくなるための基本的な環境設定について具体例を見ていきましょう。

はい！児童の実態に合わせて、学びやすい環境を整備することを考える必要がありますね！



時間割の工夫

- 学習が行いやすいよう、教務主任等と連携して、交流及び共同学習を行う授業との組み合わせを考えましょう。
- 年間指導計画を作成する際に、各学年が同一教科同領域の学習内容になるよう意識すると良いです。



交流及び共同学習の担当者や各学年の担任の先生と積極的な連携を取ることが大切です。

例

	A児	B児	C児	D児
1	生活	算数	算数	体育
2	体育	理科	理科	音楽
3	算数	算数	算数	算数
4	音楽	音楽	音楽	理科
5	国語	国語	国語	国語
6	自立	自立	自立	自立

※色が付いている授業は、教室（特別支援学級の教室）で行う授業を指す。

なるほど。国語や算数、自立活動の時間を揃えると、学習の導入、まとめ、表現活動において、全員一緒に学ぶことができ、異学年で交流する機会が増えますね。



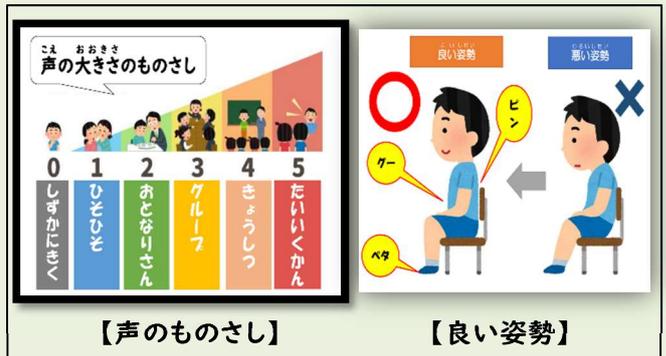
障害の特性に応じた工夫

スケジュールや活動の視覚化

- 学校生活や学習活動において、スケジュールや活動内容を絵カード等を使って「見える化」することで、児童は見通しをもつことができ、落ち着いて活動しやすくなります。
- 普段から日常的に必要な活動に関するきまりなどは、一目で分かるように文字とイラストを組み合わせたものを掲示するなどの工夫があると良いです。



写真や絵を用いたスケジュール等、活動の流れが視覚的に分かり易く示されていると、児童も安心して学習に集中しやすくなりますね。



活動しやすい教室づくり

- 「どの場所で何をするのか」が分かるように、活動と場所が一致するように棚や机を配置することで、児童は活動がしやすくなります。
- ホワイトボードやパーテーションを活用して、個別学習のスペースや、落ち着ける場所（クールダウンスペース）などを作ることで、安心して学習に取り組むことができます。

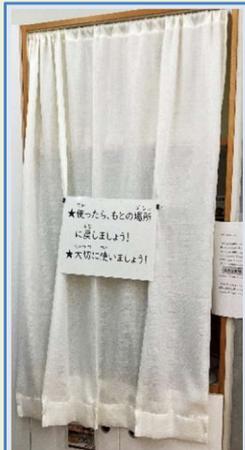


児童の席に座って、児童の目線で教室を見渡してみることで、安全で活動しやすい教室になっているか、確認してみると良いですね。

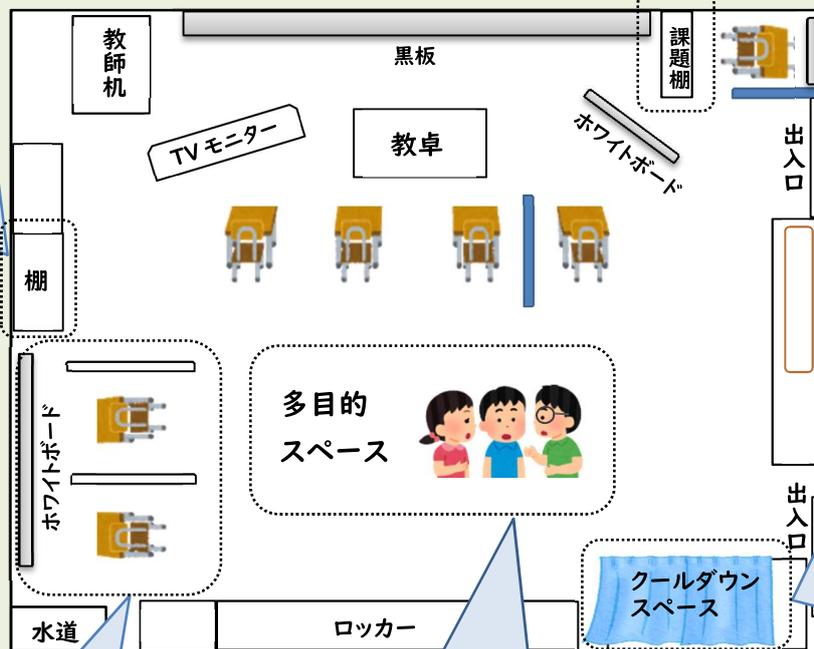
個別の学習課題ボックス



個別の学習課題ボックスは、上から順番に取り組める仕組みになっています。視覚的にも終わりが分かり易く、児童は見通しをもって個別の課題に臨むことができます。



棚にはカーテンをして余計なものが目に入らないようにしています。使い方などの注意事項は、分かり易く掲示しています。



クールダウンスペース



出入口の側に配置して、カーテンで仕切ることによって、リラックスできる場所を用意することができます。

個別学習スペース



パーテーションで仕切られていることで、周りを気にすることなく安心して勉強に取り組むことができます。



多目的スペース



多目的スペースを置くことで、集団で学習したり、話し合いをしたりする場所として活用できます。場所を変えることで、活動も切り替えやすくなります。

3 児童の実態把握

ラン先生の学級は、4名の児童がいます。昨年度担任からの引継ぎ、「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を参考に、在籍児童一人一人の実態について把握しましょう。この学級の児童たちは、各教科等において当該学年の目標・内容を学習しています。



第2学年男児 A (自閉症・ADHD)

児童の実態

注意の持続時間が短い。

音に敏感で、大きい音やざわざわしているのが苦手。

興味のあることに没頭できる。

スケジュール等の変更に弱く、時間割が急に変更されると、パニックを起こすことがある。



気持ちのコントロールが難しい。

これまでに行った支援

注意が持続するよう、活動を細かく区切る。

必要なときに、自らイヤーマフを装着できるようにする。

必然性があり興味をもてるような教材の工夫をする。

時程が変更になる際は、その掲示を見せながら、一つ一つ丁寧に説明する。

気持ちが高ぶったとき、クールダウンする時間をとる。

第3学年男児 B (自閉症)

児童の実態

自分の興味のある事を話し続ける。

言葉のみの説明では理解しにくい。

相手が嫌がるようなこと（身体的な特徴、失敗）なども気にせず話す。

個別でかつ興味のある課題には集中することができる。

相手の意図が上手く読み取れず、自分に悪意をもっていると取り違えてしまうことからトラブルが絶えない。



これまでに行った支援

指示内容や活動の流れなどを指差ししながら説明することで、視覚的に把握できるようにする。

本人と一緒に考えた「ちくちく言葉」「ふわふわ言葉」を掲示する。

トラブルが起きたときなど、コミック会話を取り入れ、そのときの状況理解につなげる。

第3学年女児C (選択性かん黙)

児童の実態

極度の緊張で、固まって動けなくなることもある。

人からの問い掛けに対し、微かな身振りやうなずきで答えることができる。

学校では、ほとんど言葉を発しないが、家庭や親しい友人とは話をしている。

理解力があり、学習面での心配は特にはない。

自分の思いを書いて伝えることができる。



これまでに行った支援

見通しをもって安心して行動できるように、写真などを活用して、活動内容等を事前に伝えるようにする。

集団での学習では、参加の方法を本人の状態にあわせ、柔軟に行う。

座席は、本人と相談しながら、安心できる場所にする。

選択肢を提示するなど、本人が意思表示しやすい方法で意思疎通ができるようにする。

第5学年女児D (自閉症)

児童の実態

言葉で自分の気持ち等を表現することが苦手

見通しがもてずに不安な場合は、自ら担任に活動の内容や流れについて尋ねることができるようになってきている。

一人であることを好むが、学習活動の中では協働することができる。



これまでに行った支援

次の日の学習の見通しをもたせる。特に、集会や行事などの流れや内容については、視覚的な情報を用いながら、しっかりと見通しをもたせる。

本人が得意な場面で考えを表現する機会を与えながら、自分の考えが伝わった経験を積ませる。

情緒が不安定になった場合は、自分の席で好きな塗り絵をしながら気持ちを落ち着かせ(約10分)、その後、担任と話をする。

※授業づくりのヒントに係る実態を例として挙げています。

4 異年齢集団における授業づくりのヒント

異年齢集団だと、学習内容がばらばらです。どうやって授業づくりをしていくのですか。



異年齢集団であるということは、教師が直接指導できない時間がどうしても生まれますよね。その時間に児童が一人で学習を進めていくことができるように計画的に指導しましょう。



1 : 授業構成の工夫

○児童の実態や学習する教科や内容を考慮して「わたり」「ずらし」を計画しましょう。

「わたり」とは？

直接指導を行うために、複数の学年を移動する教師の動きのこと

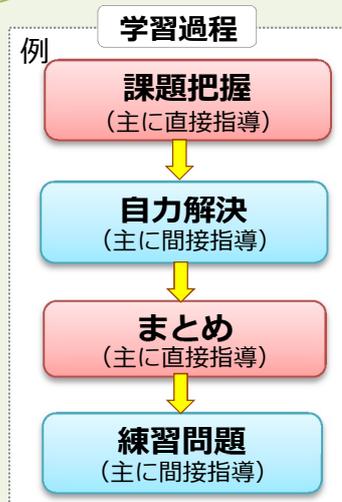
直接指導…一方の学年に教師が直接的に行う指導

間接指導…直接指導でない他の学年が、一人で学習を進められるよう指示を与えるなどを行う指導

同時間接指導…全体に対して間接指導を行い、必要に応じて個別に行う指導



学習過程を「導入」「展開」「終末」の3段階ではなく、4段階（例：「課題把握」「自力解決」「まとめ」「練習問題」）にすることで、直接指導したい場面を設定しやすくなります。



例えば、どの学年でも課題把握で直接指導を行いたいと考えたとき、学習過程を「ずらし」て行くと、他の学年の課題把握も直接指導が可能になります。



例 1 単位時間の学習過程

第2学年		第3学年	
学習過程	教師の動き		学習過程
課題把握	直接指導	間接指導	練習問題
自力解決	間接指導	直接指導	課題把握
まとめ	直接指導	間接指導	自力解決
練習問題	間接指導	直接指導	まとめ

ずらし

「直接指導」「間接指導」「同時間接指導」のイラストカードを学習の流れとともに示しておくで、児童にとって分かりやすいです。



直接指導



間接指導



同時間接指導



計画的であると、事前に支援員さんとも連携を図りやすいです。各時間の目標とともに、間接指導・同時間接指導の際に、どのように支援してもらいたいかを伝えましょう。

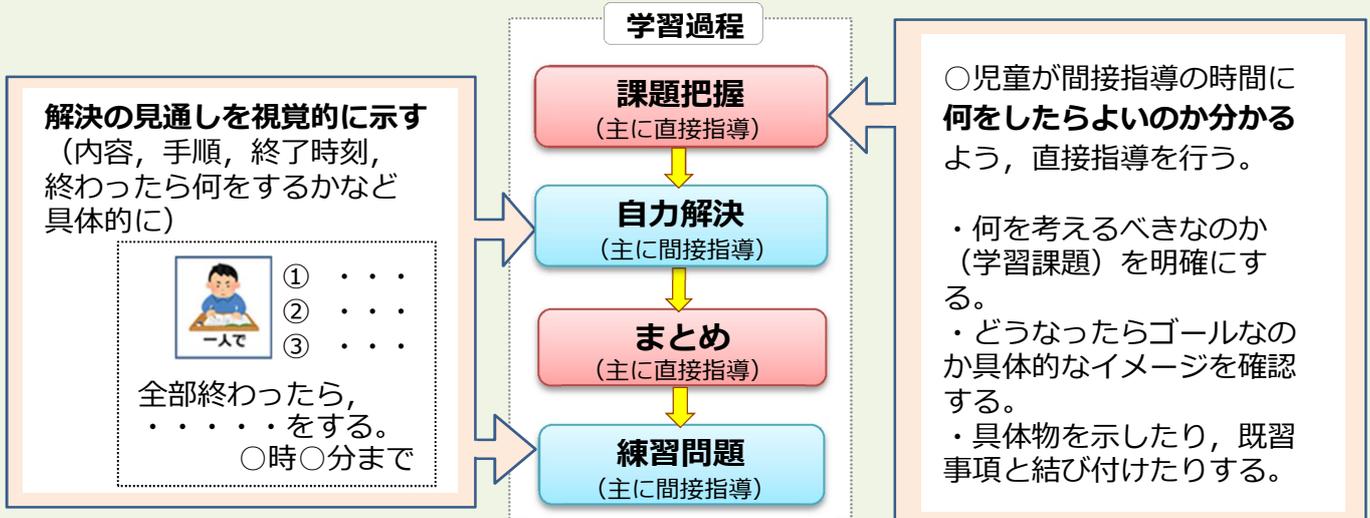


さらに、間接指導において児童が一人で学習を進めていくためには、やはり障害の特性等を踏まえた指導・支援の工夫が重要です。



2：学び方への支援

○毎時間の学習過程をパターン化することで、見通しをもって児童が学習を進めていくことができます。



○学び方のスキルを育てる視点を持ち、意図的に伝えていくことが大切です。

(例) 考えを整理する方法

(ノート、タブレット型端末等で)

- ・文章にする。
- ・キーワードを並べる。
- ・図や絵でかいてみる。
- ・図や絵に書き込む。など



(例) ヒントが欲しくなったらどうするか

- ① ノートなどで学習した内容を確認する。
- ② 小さい声で友だちに聞く。
- ③ 先生の様子を見て、静かに手を挙げる。



3：学習環境の工夫

○個別に学習するスペースを、目的別に分けて整え、個人の意思で学習する場所を選択できるようにしましょう。

丸付けコーナー



課題を終えて答え合わせをするとき(専用赤ペンで)

調べコーナー



辞書やタブレット型端末等を広げて調べたい、考えたいとき

相談コーナー



友だちと考えたい、先生に教えてもらいたいとき

○特性に応じた学習上の支援

- ・時間の見通しをもちにくい
- ・切り替えが難しい
- ・覚えることに時間が掛かるなど

タイマー

児童が分かりやすいものを選択する



学習のヒント

(個別のスペース)

覚えるまでいつでも確認OK

- ・ひらがな表
- ・ローマ字表
- ・九九表 など



異年齢集団で構成されていることの良さを生かすという視点で、お互いに関わり合う場面を取り入れることも良いです。上の学年が下の学年に教えたり、下の学年は上の学年の学ぶ姿をモデルにしたりすることができます。

5 異年齢集団における教科指導の例 (算数科)

児童の実態を考慮し、異年齢集団における授業づくりのヒントを参考に指導の計画を立てました。

- ・第2, 5学年の学習過程をずらす。
- ・第2, 3学年は、同じ領域の単元を扱い、異年齢での関わりを生かした自力解決にする (同時間接指導)。



1: 構成

	第2学年男児 A (自閉症・ADHD)	第3学年男児 B (自閉症)	第3学年女児 C (選択性かん黙)	第5学年女児 D (自閉症)
めあて	「長さ」 物差しを用いた測定の仕方を身に付ける。	「長い長さ」 長いものや丸いものの長さを測定するには、巻尺が適していることを理解するとともに、その使い方を理解する。		「小数のかけ算」 乗法の交換法則、結合法則や分配法則が成り立つことを理解する。
学習過程	<p>全体 (説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の本時の学習の流れを確認 (視覚的に示す) <p>2: 学び方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・測り方のポイント, ワークシートで、学習の見通しをもつ。 	<p>2: 学び方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自力解決で友だちと活動 OK ・声の大きさは1 ・D児の学習スペース など <p>3: 環境</p>		
	<p>ずらし</p> <p>練習問題 (一人で)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題解決につながる既習事項を確認する。 <p>わたり</p> <p>課題把握 (先生と)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を確認する。 <p>いろいろなものの長さを測りたい。</p> <p>2: 学び方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・測り方のポイント, ワークシートで、学習の見通しをもつ。 	<p>課題把握 (先生と)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を確認する。 ・測りたいものをいくつか考える。 ・ワークシートで、学習の見通しをもつ。 <p>巻尺で、どんなものが測れるかなあ。</p> <p>自力解決 (一人で)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に長さを測る。 <p>二人とも同じものの長さを測ったのに、違う結果になっている。測り直してみよう。</p>	<p>ずらし</p> <p>自力解決 (一人で)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師からタブレット型端末に送られた「本時の学習の流れ」を確認し、自力解決に取り組む。 <p>●月●日●時間目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 課題確認 2 自力解決 3 まとめ 4 練習問題 5 次時に向けて 	
	<p>自力解決 (一人で)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に長さを測る。 <p>今いい? 30 cm物差しでは、足りないんだ。どうしたらいい?</p>	<p>自力解決 (一人で)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に長さを測る。 <p>30 cm物差し貸すよ。こうやって...</p>	<p>自力解決 (一人で)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に長さを測る。 	<p>3: 環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択した練習問題をする (タブレット型端末、紙ベースのドリル等)。
	<p>練習問題 (一人で)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートのチャレンジ問題に取り組む。 	<p>練習問題 (一人で)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のものを測定もしくはドリル学習に取り組む。 	<p>自力解決 (一人で)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に長さを測る。 	<p>3: 環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択した練習問題をする (タブレット型端末、紙ベースのドリル等)。
	<p>全体 (振り返り)</p> <p>1: 構成</p> <p>2: 学び方</p> <p>3年生が使っていた巻尺って、便利そう。</p>	<p>巻尺を使えば、長いものの長さや太さを測ることができた。今度は運動場を測ってみたい。</p>	<p>小数のかけ算も、かけ算のきまりを使って、計算の工夫ができることが分かりました。</p>	<p>2年生で学習したかけ算のきまりは、5年生でも関係しているんだな。</p>

指導・支援の工夫



1：授業構成の工夫

同じ領域で単元を揃えると、同時間接指導で異年齢で関わりながら学習を進められる学習活動を設定できそうです。



指導のしやすさだけでなく、同じ領域であることで、学習のつながりを児童が感じられそうですね。

各単元における指導計画例

第2学年 「長さ」	第3学年 「長い長さ」
(省略)	1 単元の課題を設定する。
3 「mm」を知る。 ・1 cm = 10 mmの関係を確認する。	2 巻尺での測定の仕方を知る。
4 物差しを使っているいろいろなものの長さを測る。 (省略)	3 巻尺でいろいろなものの長さを測定する。 (省略)

そえる



2：学び方への支援

ワークシート

活動の見通しをもてるワークシートにしました。



(例) 第2学年

いろいろなものの長さをよそうして、はかろう。

自分の席にすわったまま…
(3つ)

席からはなれて…
(3つ)

もの	よそう	長さ	もの	よそう	長さ

チャレンジ問題

活動の場所や測定するものの個数が具体的ですね。一人でできそうな内容であり、短い集中時間で活動が切り替えられる工夫となっていることも good です。



異年齢との関わり

自力解決のときに異年齢で関わるのがOKであること、そのときに気を付けることを前もって明確に伝えたいです。



- ・友だちと活動 OK
- ・声の大きさは、1
- ・友だちに聞きたいことがあるときには、「今、いい？」と尋ねる。 など

明確に示されることで、安心して学び合いができそうです。



3：学習環境の工夫

自主的な学習に向かえる選択肢

自分の学びやすい方法を選択して練習問題に取り組める環境が良いです。また動画を活用して理解を深める方法もあります。



「文部科学省 学習支援コンテンツポータルサイト (子供の学び応援サイト)」には様々なサイトが紹介されています。

支援員との連携

支援員さんには、測定の補助をしてもらいながら、主にCさんの様子を見てもらう計画です。



集中・安心できる学習場所

他の学年が測定していても、Dさんが集中できるように学習場所に配慮したいです。



Dさん本人が、学習の途中で場所を選択して移動できるようにしても良いですね。



6 自立活動の指導例

1 : 構成

児童に馴染みのある「風船バレー」を題材に選び、各児童の課題に合わせた「めあて」を設定することで一緒に学び合える授業構成にしました！



	第2学年男児 A (自閉症・ADHD)	第3学年男児 B (自閉症)	第3学年女児 C (選択性かん黙)	第5学年女児 D (自閉症)
本時のめあて	【共通】 ● 友だちの良い所を「ふわふわ言葉」を使ってほめたり、励ましたりすることができる。			
	<ul style="list-style-type: none"> ● 友だちと一緒にルールを守って、風船バレーに最後まで取り組む。 ● イライラしたら、「おたけびBOX」で気持ちを切り替える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 友だちがミスしても、「ちくちく言葉」を使わずに、「ふわふわ言葉」で励ますことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 友だちのプレーに対して言葉や文字カードで、感想を伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ペアの友だちに、アドバイスすることができる。 ● 試合の振り返りでは、自分の感想を発表することができる。
題材	「イイね！」でほめあう風船バレー♪			
導入	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;"> <p>全体活動 (説明)</p> <p>質問 OK</p> </div> <div style="width: 60%;"> <p>○活動の流れと目標を確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各児童の「めあて」をミニホワイトボードなどで確認する。 ・「ふわふわ言葉」「ちくちく言葉」について確認する。 </div> <div style="width: 15%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2 : 学び方</p> </div> </div>			
展開	<div style="display: flex;"> <div style="width: 30%;"> <p>全体活動</p> <p>質問 OK</p> <p>○全員でルールを確認する。(右図)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A 児が代表でルールを読み上げる。 <p>3 : 環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多目的スペースに移動して準備をする。 ・ B 児 (準備係) を中心に準備を行う。 <p>2 : 学び方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ほめあう言葉や使い方を練習する。 ・ 教師の見本を参考にして、実際のプレーを通して「ナイスパス!」「ドンマイ!」等の言葉を伝え合う練習をする。 <p>1 : 構成</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>事前に「ふわふわ言葉」や「ちくちく言葉」に関する学習などを取り入れると、よりつながりが出ますね。</p> </div> <p>○風船バレーを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2対2のゲームを行う (5分間×2試合) 教師が審判をする。 ・ 結果発表を聞く。 ・ お互いに拍手と握手をして、終了。 </div> <div style="width: 70%;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">風船バレーのルール</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「イイね!」などの「ふわふわ言葉」で友だちを褒めたり、励ましたりすると1回=1ポイント ★Cさんは「イイねカード」でもOK! ② 1試合5分で終了。ポイントが多い方が勝ち ③ 試合が終わったら、勝っても負けても拍手で交代 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>ミスした時は、何て声を掛ければ...?? あ! そうだ、黒板!!</p> <p>Cさん、ドンマイ! 大丈夫だよ。</p> </div> <div style="width: 35%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>2 : 学び方</p> <p>【ふわふわ言葉】 「イイね!」「ナイス!」 「おいしい」「ドンマイ」 ・・・</p> <p style="text-align: right;">イイね!</p> </div> <p>ミスしたけど、Bくんの声掛けが優しかった! 「イイねカード」で伝えよう!</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>2 : 学び方</p> <p>ふわふわ言葉を促すなど、声掛け支援を行う。</p> <p>動画を撮影して、振り返りの教材として活用しよう!</p> </div> </div> <div style="width: 30%;"> <p>Aくん、もっと後ろで構えた方が良いよ。</p> <p>Dさん、ありがとう!</p> </div> </div> </div>			
まとめ	<p>全体活動 (まとめ)</p> <p>質問 OK</p> <p>○振り返り (D 児が司会を行う。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 試合を振り返り、良かった点や反省点について話し合う。 ★司会用の話型を用意する。 2 : 学び方 ・ それぞれの「めあて」が達成できたかを確認し合う。 <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 20px;"> <div style="width: 45%;"> <p>異年齢集団の学び合いの中で、色々な役割を担いながら協力して学習することで、学級として互いに支え合う関係ができますね。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>Dさん、すごいなあ!</p> </div> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> <p>●ふりかえり ●○○○○</p> </div>			

指導・支援の工夫



1 : 授業構成の工夫



自立活動の指導とは、「個々の子どもが自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取組を促す学習活動」のことです。



みんなで一緒に自立活動をする時、何に気を付けて指導内容や児童の「めあて」を考えれば良いでしょう？

集団で自立活動を計画する際は、このようなことが、ポイントとして挙げられます。



A児の場合だと、次のような流れで考えてみると良いでしょう。

【集団で行う自立活動のポイント】

- ① 児童の自立活動の中心的な課題について整理する。
- ② 興味・関心のある集団活動(学び合える内容)を取り入れる。
- ③ ①②と関連する児童それぞれの具体的な「めあて」を設定する。
- ④ 課題に応じた事前学習があれば、授業につながりをもたせて生かす。
- ⑤ 児童それぞれの課題に応じた、指導・支援を考える。

【A児の指導内容について】(例)

【自立活動の課題】

勝敗等にこだわり、怒りの感情をコントロールすることが難しく、他者に対して荒々しい行動をとることがある。



【年間目標】

- 自分の気持ちをコントロールして最後まで活動に参加できる。
- イライラした時は自分で決めた方法で発散することができる。



【課題に応じた自立活動(例)】

「レッツ!イライラコントロール」

・どんな時にイライラするか考えたり、イライラが見える化して、イライラ度を測ってみる。

・イライラした時にどうすればよいか、みんなで方法を考えて、実際に試してみる。

- ① 「おたけびBOX」に思い切り叫ぶ。
- ② 6秒数えて、深呼吸する。

【本時のめあて】

- 友だちと一緒にルールを守ってゲームに最後まで取り組む。
- イライラしたら、自分で決めた方法で発散して気持ちをリセットする。

みんなで同じ活動を行う際も、それぞれ個々の課題は違うので、一人一人に合った「めあて」をもって授業に臨むことが大事なのですね！



2 : 学び方への支援

視覚的な支援



いつでも確認できるように、ゲームのルールや「ふわふわ言葉」を見やすく掲示しました。

児童が、すぐに見て確認できるのは良いですね！



見通しをもたせる支援



授業(活動)の流れを順番に示しました。また、児童それぞれの「めあて」をミニホワイトボードに書いて提示しました。

課題への支援(C児を例として)

Cさん(選択性かん黙)が安心して活動するには、どんな支援が必要でしょう？



例えばこんな支援があれば安心して活動できますね。

- 風船バレーに入る前に、「ふわふわ言葉」を使う練習の時間を取る。
- 「イイね!」カード等を用意して、緊張で言葉が出ない時、カードを黒板に貼ることでポイントとする。
- Cさんの特別ルールをみんなで確認しておく。

イイね!



3 : 学習環境の工夫

活動場所を分ける

授業の導入やまとめは通常の席で行い、風船バレーや話し合いは多目的スペースを使用しました。



学習活動の内容によって、場所が変わることで、気持ちの切り替えもしやすいですね。

～ おわりに ～



ラン先生、お疲れ様でした！！
自閉症・情緒障害特別支援学級の担任になることへの、
悩みや不安が解消されましたか？

はい！異年齢の複数の児童を一度に担当することや、
授業の進め方などに不安がありましたが、この「**異年齢
集団における授業づくりのヒント**」に示された様々な工
夫を参考にして、私も授業を計画することができまし
た！



このパンフレットでは、自閉症・情緒障害特別支援学級
を対象に、「**異年齢集団における授業づくりのヒント**」を提
案しました。これら児童の実態は、パンフレット作成にあ
たり考案した例であり、自閉症や情緒障害の子どもの実態
は様々です。あくまでも一例として参考にしてください。

紙面の都合上、今回は省きましたが、本来は一人一人の
児童に対して自立活動の視点を踏まえた丁寧な実態把握が
必要であることは、言うまでもありません。

一人一人の「困難さ」に応じた授業づくりをするため
には、以下の資料やインターネットサイトなども有効です。
ぜひ参考にしてください。



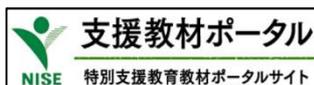
～もっと学びを深めたい人のために～

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

発達障害教育推進センター
<http://cpedd.nise.go.jp/>



特別支援教育
教材ポータルサイト
<http://kyozai.nise.go.jp/>



NISE 学びラボ
https://www.nise.go.jp/nc/training_seminar/online



広島県教育委員会「特別支援
教育ハンドブック No.1」

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/07challenge-tokubetuhandbook1-top.html>

文部科学省
学習支援コンテンツポータル
サイト

https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index_00001.htm

広島県立教育センター
「特別支援教室の部屋」
<https://www.hiroshimac.ed.jp/tokubetushien.html>



引用・参考文献

- ・文部科学省（平成 30 年）「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説算数編」
- ・文部科学省（平成 30 年）「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」
- ・文部科学省（令和 3 年）「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」
- ・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2021 年）「特別支援教育の基礎・基本 2020」
- ・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（令和 2 年）「自閉症のある子どもの自立活動の指導について考えよう！」
- ・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2021 年）「特別支援学級での自閉症のある子どもの自立活動の指導」
- ・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（平成 28 年）「自閉症のある子どもの自立活動の授業を組み立てる上での要点」
- ・広島大学附属東雲小学校（2010 年）「複式教育ハンドブック―異学年が同時に学び合うよさを生かした学習指導―」東洋館出版社
- ・北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター（令和 4 年）「へき地・複式・小規模校教育の手引―学習指導の新たな展開―（改訂版）」
- ・広島県教育委員会（令和 3 年）「特別支援教育ハンドブック No.1 令和 3 年改訂版～特別支援学級・通級による指導を中心に～」



異年齢集団が学び合える
授業実践例を紹介しています。
ぜひ参考にしてください。



広島県立教育センター 特別支援教育・教育相談部 令和4年度研究事業
「自閉症・情緒障害特別支援学級における異年齢集団での授業づくりに関する研究」

研究成果物

**自閉症・情緒障害特別支援学級を担当する先生のための
異年齢集団における授業づくりのヒント**

<研究者>

広島県立教育センター特別支援教育・教育相談部

指導主事 廣藤香織・黒木敏弘, 主査 鈴木優佳

<研究指導者>

山口大学教育学部 講師 柳澤亜希子

<共同研究者>

広島県教育委員会学びの变革推進部義務教育指導課

主任指導主事 村田耕一, 指導主事 山口洋平

<研究協力者>

広島県立教育センター特別支援教育・教育相談部

指導主事 今野満美子・山口めぐみ, 主事 三吉久美子

(発行元・本研究に関する問い合わせ先)
広島県立教育センター 特別支援教育・教育相談部
TEL (082) 428-1188